祖父：大阪府泉佐野市農家息子／機械技師

小さいころからの人生いうてもな。そんなに覚えてることも無いんやけど。小学校までは後から人に聞いた話ばっかりやわ。お前、五歳の時の話覚えてるか？　覚えてへんやろ。ほたらこんな爺は覚えてへんわな。おう、もう始めてええんか？

生まれたのは一九四二年や。百姓の家の分家筋でな。一番上が兄、次が姉、末っ子が俺や。家の場所？　羽倉（羽倉崎町）やがな。昔は出村いわれとったとこな。昔いうても、俺の祖父母らがいうとったぐらいやから、相当昔の地名やけどな。そんで、五歳の時に父親が亡くなってな。顔も思い出されへん。もともと身体が弱くてな。戦争も行かんかったんやけどな。亡くなった時はまだ五歳やったから、なんもわからんで、家にいっぱい人が来て喜んでたらしいわ。そういえば、あの頃は死んだら丸い棺桶に座って入っとったんやで。それを肩に担いで海辺の火葬場に運ぶんや。俺は先頭で藁持って歩いとったらしわ。なんの意味があったんかは知らんけどな。いや、意味が分からんのは今もかな。

戦争も生まれた時はギリギリやっとったみたいやけどな。田舎やし、父親も戦争行かんかったしな。食糧も、もともと百姓ばっかりの所やからな。戦争の後とそんなに変わった記憶は無いな。母親しかおらんかったから、贅沢できたわけではないけどな。川で釣りして遊びがてら魚獲ったりな。それがご馳走や。まあ、貧乏は貧乏やったよ。母親が一人で色々バイトして、それで育ててくれたんやけど、服も買われへんし、食事も米とたくあんやら漬物、後は兄がジャガイモやら玉ねぎを炊いてくれたぐらいや。

ほんでまあ、小学校はなあ。野球と釣りばっかりしとったわ。この頃は特に覚えてることはないな。お前も小学校の時分のことなんか覚えてへんやろ。けど、高学年ぐらいにな、家族みんな働いとって、帰ったら家が暗ぁくてな。寂しかった。せやから、結婚した時にはおばあちゃんにいつでも家に居ってもらうように頼んだんや。

中学も野球と釣りやったけど、休みの日によく試合しとったな。近くの中学校とでチーム作って、学校の運動場で試合するんや。似たようなチームがいくつもあって、そことな。せや、そこの一中や。今は佐野中か。昔はあそこの運動場からすぐ海で、ボールが飛んで行ったらバシャバシャ泳いで取りに行くんや。あの頃は海も綺麗やったからな。今もうあそこで泳ぎたくないやろ。まず、埋め立てられたし。

で、その後は夜間高校に通いながら、近くの大阪陶業に就職した。ほんまは普通の高校に行きたかったけどな。母親の実家に相談したら、「兄貴も定時制やのに、何をお前ごときが」ってえらい怒られたわ。で、大阪陶業で二年ぐらい働いたんやけど、工場が夏えらい暑うて、敵わんかったんや。そしたらある日、新聞にダイキンの募集が出ててな。「これや！」と思って一念発起や。で、結局四四年勤め上げることになるわけやな。

ダイキンに入って数年は訓練ばっかりさせられとった。旋盤やらなんやら、とにかく機械を扱えるようになったら、ほな次の機械や、いうて。なんや、高専でやるような訓練やったらしいわ。指を落としたこともあったよ。機械に巻き込まれてしもて。最後にはまたくっついたんやけど、包帯巻いてる間は母親には「鎌で怪我してしもた」なんていうとった。しばらく働いてからわかったんやけど、どうも、入社した時には中卒やったから、高校を卒業しても中卒扱いのままやったんや。その時はそれも知らんと、そういう訓練みたいなのをずっとやって、そしたら次は自動機械を使うようになって、最後は自動機械を修理する仕事をやるようになった。あの頃にはもう組み立ては自動機械がやっとったんやけど、その製品を作る機械のほうがイカれる時があるから、それを修理したり、改良したりするんや。この改良が結構得意でな。色々表彰もされたんや（封筒に指二本分ほどの表彰状が詰め込まれていた）。一番ええのが寝室に飾ってあるやつやわ。科学技術庁長官賞って書いてあるやろ。ツーポールケーシング装置ていって、まあ円柱を二つ溶接する機械を作った時のやつや。他にも色々作って、他は社長賞みたいなもんやけどな。機械ばっかり触って過ごしとった。最初は浜寺の工場におったんやけど、しばらくして金岡に移ってな。ほな隣のクボタで兄貴が働いとって、ばったり会ってびっくりしたわ。クボタで働いてるのは知ってたけど、工場の場所の話なんかせんかったからなあ。

それで、金岡に移る頃からちょっとずつ立場も上がっていってな。中卒扱いなんやけど、ライン長、現場長って上がっていって、この頃におばあちゃんと結婚した。二八の時やな。で、その時にこの家を建てたんやけども、そんなに給料も貰ってな

いから資金が無くてな。大工の友達やらそうじゃない友達やら、色々手伝ってもらって、自分らで建てたんや。その割にはしっかりしとるやろ。もう五〇年経つけど、まだまだガタも来てへんもんな。新婚旅行もしたよ。家はできてたんやけど、炊飯器が無いっていって、新婚旅行帰りに買ったりもしたな。まあ、バタバタしとった。

ちょうどその頃、さらに昇進する準備で事務方に回されたんや。けど、これがほんまに合わんくてな。鬱みたいになってもて、でも娘も二人おるし、家族のために働かんといかんから、市役所の知り合いに相談したんや。そっちに入れてくれへんかってな。そしたら、「でもね家治さん、今までそんなに頑張ってきはったんやろ。ほんまにええんですか。勿体ないですよ」っていわれてな。なんとか耐えとった。あんまりにも駄目なんで、その後すぐ製造に戻されたわ。それ以降は見放されてしもたんやろな。鳴かず飛ばずや。

それで現場長をやってると、部下もできるわけで、正社員、短期問わず色々世話しとった。ダイキンは短期の出稼ぎみたいなんを雇ってて、そういう奴は地方から身一つで来るからな。よう面倒見とったわ。部下の中でも大学を出てるやつはすぐに上に上がっていってな。極めつけはヨーロッパで会社起こしたやつもおって、そいつは日本に帰ってきて会ったときに「この人のおかげでここまで来れたんや」とかいうとったな。まあ、踏み台にされた訳やな。はは。

そんなこんなで四四年、まあ途中で定年退職して分工場に移ったりはしたけど、合計で四四年勤め上げたっちゅう訳や。その後はシルバー人材センターに登録して、まずは放置自転車の修理やな。市内の放置自転車が一カ所に集められてて、それを一日百台ぐらい、俺と同じような奴と二人でひたすら修理するんや。そこは二カ月ぐらいやったかな。次は駐車場で、こっちは胃がんで辞めるまで一〇年近く続いた。退院したらまた戻ったんやけど、まあキツくてな。しばらくして辞めてしもた。

で、今に至る。ああ、そういえば五年ほど前に、ダイキンで面倒見てた奴が一人訪ねてきたんや。九州から出稼ぎに来とった奴でな。工場から帰るときに事故に遭うたんやけど、その時本当にお世話になって、やっと見つけられました、と。いわれるまで忘れとったんやけどな。確かに出稼ぎで来てた若いのが事故に遭うて、会社も助けてくれんで困ってるのを見かねて、おばあちゃんにいって着るものやら食べるものやら世話したことがあったんやわ。そいつ、年取って足も悪くして、それでも必死で探してたらしくてな。恩返しをしようと思って、家治さんいう名前だけは知ってるんやけども、会社に聞いても役所に聞いても教えてもらえんかったらしい。そういうことを疎遠になってた息子にポロっと話したら、息子がどうやってか住所を調べてくれたらしくてな。でもこの家、奥まったところにあるやろ。せやからさらに頑張って探しました、これでようやく肩の荷が降ろせます、いうてな。そんなこともあったわ。

ほんでなんや、最後に教訓でもお願いしますってか。教訓なあ、そんな大したもんも無いんやけど。でもそうやな、友達だけは大事にせえよ。友達の縁は一生もんや。友達さえおれば最後にはなんとかなる。だからな、友達だけは大事にせなあかんで。

ダイキン職場長時代